

## 山口運河物語



▲紙芝居『山口運河物語』と伊澤敏幸さん

札幌市内で唯一「運河」という名前を持つ山口運河。その昔、山口県から星置・山口地区に入植した人々が、本州から来る生活物資を船で札幌に運ぶために造ったものでした。当時は札幌まで船で8時間かかりました。昨年、その山口運河を題材にした紙芝居『山口運河物語』が地域の皆さんによって作られました。

紙芝居『山口運河物語』の制作の中心となっていた山口運河紙芝居製作委員会の伊澤さんは、「札幌市が運河の一

部を復元した際、その歴史を調べていくうちに、ここは相当歴史がある場所だということとが分かってきました。そこで、紙芝居を作れば、見た人に歴史を分かってもらえるのでは」と、紙芝居を作るきっかけを話します。

一昨年の冬に制作作業を始め、すべてが完成するには半年以上の時間かかりました。昨年1月の星置地区の新年交礼会で初披露し、その後、山口運河まつり、養護学校、地区内の幼稚園で上演しました。

その反響は大きく、さまざまな年代の方から「あの川にこのような歴史があったのか」という感想が寄せられました。

現在、この紙芝居は一つしかないのです。コピーを作って児童会館、各小学校、地区センター、図書館などに置いてもらい、語り部の録音したカセットテープも用意して、どこでも上演できるようにしたい、と委員会では考えているそうです。

「星置・山口地区は近年に移り住んだ人々が多いので、この紙芝居をきっかけに、地域の歴史に興味を持ってほしい」と、委員の皆さんは願っています。



▲山口運河まつりでは大勢の観客の前で上演されました

## 紙芝居

『山口運河物語』については

星置まちづくりセンター  
(星置2条3丁目)

☎695-3222)

までお問い合わせください。

## 手稲でみつけた 手稲のはなし

手稲区役所でも、平成12年に郷土誌を発行しました。区政10周年を記念して発行したこの郷土誌の題名は『手稲でみつけた 手稲のはなし』。

何もなかった手稲の土地は、先人たちの努力で実りの大地となり、そして豊かな街へと発展しました。その先人たちの苦労や功績を、区内の皆さんが集まった『手稲の語り部編集委員会』が、たくさんの方々に話を聞き、約1年かけて編集したものです。

この『手稲でみつけた 手稲のはなし』は、手稲区役所ホームページ (URL <http://www.city.sapporo.jp/teine/tthanasi/index.html>) でご覧いただけます。



今回紹介した取り組みで、お話しいただいたお二人に共通しているのは、『地域の歴史を子どもたちに継承していきたい』という強い思いでした。地域の歴史を知ることで、子どもたちは自分の住むまち「ていね」に、より愛着を抱き、そして、その愛着は次の世代へと伝えられていくでしょう。子どもたちにとって「住んでいてよかった」と実感できる、そんな“ふるさと手稲”にするために、これからも地域の皆さんの取り組みは続いていくことでしょう。

